Saga Women's Junior College

佐賀女子短大
研究紀要
第47集別刷
(2013)

幼児の身体表現活動を引き出す言葉かけ

—オノマトペを用いた動きとイメージ—

Using Words to Encourage Physical Expression Activities in Pre-school Children: Movement and Imagination through the Use of Onomatopoeia

小川鮎子, 下釜綾子, 高原和子
瀧信子, 矢野咲子

Ayuko OGAWA Ayako SHIMOGAMA Kazuko TAKAHARA
Nobuko TAKI Sakiko YANO

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

佐女短研究紀要　第47集：103—116，2013

幼児の身体表現活動を引き出す言葉かけ
—オノマトペを用いた動きとイメージ—

小川鮎子，下釜綾子，高原和子
瀧　信子，矢野咲子

Using Words to Encourage Physical Expression Activities in Pre-school Children: Movement and Imagination through the Use of Onomatopoeia

Ayuko OGAWA　Ayako SHIMOGAMA　Kazuko TAKAHARA
Nobuko TAKI　Sakiko YANO

1．本研究の目的

幼児は遊びや生活のいろいろな場面において，何かをイメージし，そのイメージの世界を楽しんでいる。身体表現をともなう遊びにおいては，動きとイメージは相互に関わっているものである。すなわち動くことによってイメージが膨らみ，イメージが深まることで新たな動きが生まれる。動きとイメージを繰り返す経験が，ものに対する豊かな探求心を育むとともに自分のイメージを鮮明に豊かにしていくことに繋がると考えられる。

筆者らのこれまでの研究において，幼児の身体表現活動を引き出すためには，指導者の言葉かけが重要であることが示唆されている。その指導者の言葉かけの中で，動きとイメージを結びつける言葉として擬音語・擬態語（オノマトペ）が使われることが多いことから2009年より5歳児を対象に，動きに有効だと思われるオノマトペを用いて，そのオノマトペに対して幼児がどのようなイメージをもって動くことができるかについて調査，分析を行ってきた。これまでの研究をまとめ報告とする。

2．はじめに

オノマトペとは，フランスに語源を持つ擬音語，擬態語を意味する。擬音語は実際の音をまねて言葉とした語であり，擬態語は視覚，触角など聴覚以外の感覚印象を表した語である。すなわち，両者は五感による感覚印象を言葉で表現する言語行動である。

幼児はイメージしたことを動きにし，表現する活動を通して動く喜びを味わう。また自然体験の中で様々な観察をしたり，絵本を見たり，劇遊びをしたり，話を創ったりすることで創造的なイメージを広げていく。このように，幼児は日常生活の中で多くの体験を重ねながら表現への基

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

盤をしっかりと築き上げていく。また，幼児の表現意欲を高め楽しくいきいきとした表現活動に発展させるのは，保育者の適切な言葉かけであろう。さらには，動きをイメージさせるような擬音語，擬態語のオノマトペを使ったり，声の大きさや調子を変えて，幼児が自然に動けるように工夫することも必要である。

幼児の身体表現活動を行う際に，指導者がよく使うオノマトペとして「ピョンピョン」「クルクル」「コロコロ」「ブーンブーン」など他にもたくさんあるが，これらのオノマトペは，実際の幼児の動きやイメージを引き出すのに効果的に作用しているかどうかを確認する必要があると考えた。

3．研究対象及び方法

対象は，①2010年３～４月長崎県および福岡県の幼稚園・保育所に通う５歳児94名，方法は，指導者が日常的に使用するオノマトペの中から「ピョンピョン」「クルクル」「コロコロ」「ブーンブーン」を選び，幼児一人一人に対し対面調査を行った。

②2010年11～12月長崎県および福岡県の幼稚園・保育所に通う５歳児64名，方法は，指導者が日常的に使用するオノマトペの中から「ピョンピョン」「クルクル」「コロコロ」「ブーンブーン」を選び，幼児３～４人のグループに対し対面調査を行った。

③ここでは①と②から2011年９～12月長崎県，福岡県及び佐賀県の幼稚園・保育所に通う５歳児103名に対し，基本の動作の中から「歩く」をイメージするオノマトペを取り上げ，子どもたちのイメージの広がりや動きについて指導者が日常的に使用するオノマトペの中から「ソロリソロリ」「ドシンドシン」「ペタペタ」「フワーフワー」「ヨチヨチ」「サッサッサッサッ」を選び，幼児数人のグループに対し対面調査を行った。

３回共に以下の調査で行った。

-１-オノマトペからイメージするものを応える。

-２-イメージしたもので動く。

-３-　-１―２-を繰り返し，イメージが出るまで行う。

以上をVTR撮影し，動きの特徴を分析した。

4．結果と考察

①　では幼児一人一人に対しての対面調査　５歳児を対象に動きに有効だと思われるオノマトペを用いて，そのオノマトペに対して幼児がどのようなイメージをもって動くことができるかについてでは以下のような結果が出た。

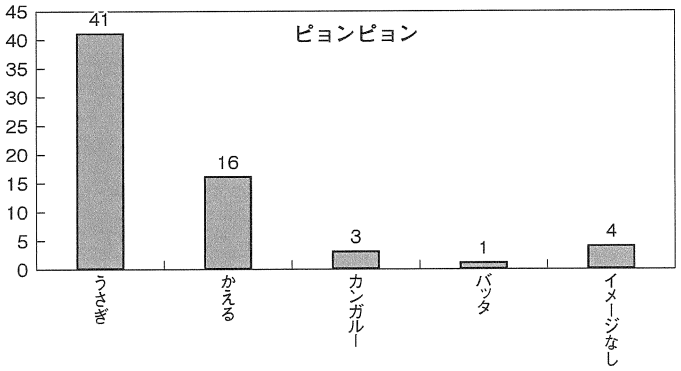
１．あらかじめ予想した幼児の動きがみられた。

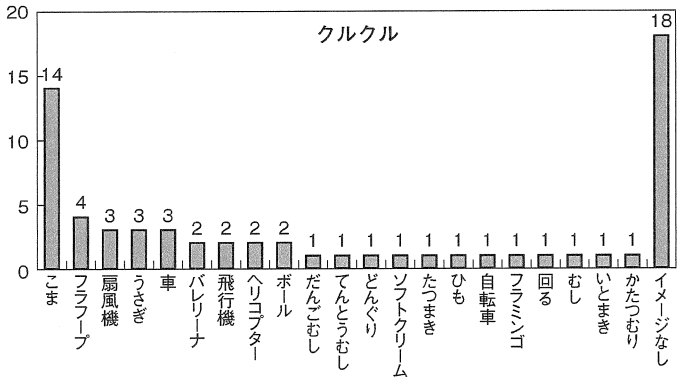
２．オノマトペの種類の違いでみると擬態語である「ピョンピョン」「クルクル」「コロコロ」は，その言葉自体が動きを表す言葉であることから，幼児はオノマトペを聴いてすぐに反応して動く

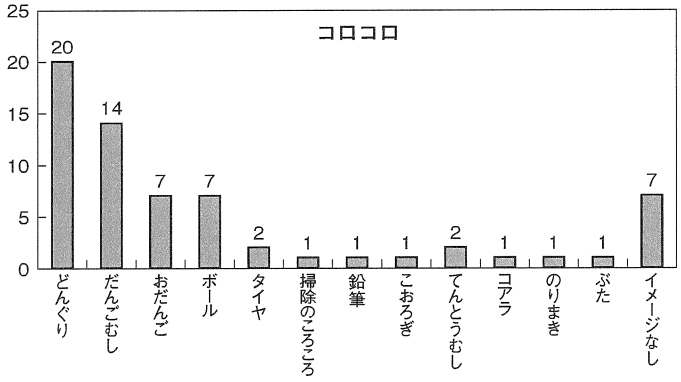
NII-Electronic Library Service

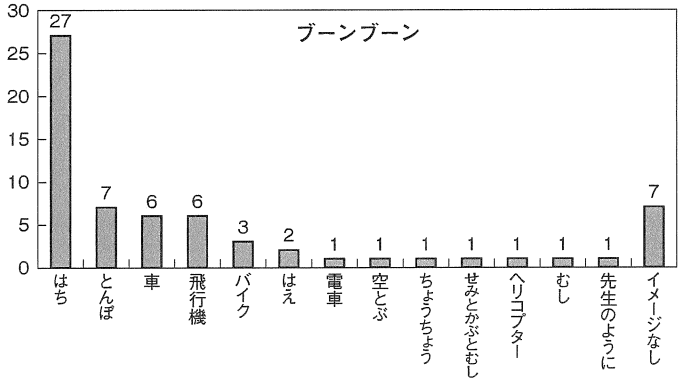
Saga Women's Junior College

―表１オノマトペとイメージ（個人）―









NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

ことができていた。一方，擬音語である「ブーンブーン」では，オノマトペに反応して動く幼児は少なくイメージに結びつけて動きはじめていた。

3．オノマトペをとおして幼児が持ったイメージは，生活の中で「見る」「触る」などの経験があるものが多かった。

4．まったく動けない幼児もおり，言葉と動きを結びつける経験の少なさが推察された。以上のことから，幼児の豊かな生活体験を提供することが重要であり，日常的にオノマトペを効果的に使うことは，幼児の動きやイメージの引き出しに有効に働きかけるものと考えられた。

本研究では，指導者がよく使うオノマトペの中から4種類をピックアップして調査・分析を行ったが，他にも様々なオノマトペを使って指導する。それら日常的によく使うオノマトペについてさらに調査し，オノマトペに対して幼児がどのようなイメージをもって動いているのか調査を広げる必要性があると考えられた。また今回，幼児一人ひとりに対する対面調査の方法をとったが，通常の保育の中では保育者や仲間と一緒に動きやイメージを共有することが多い。したがって保育者や仲間と一緒に身体表現活動を行った場合の幼児のオノマトペに対するイメージや動きの状況を調査することも必要と考えられた。

② では，イメージを共有して友達と一緒に動くことで，より豊かな動きを楽しむことができるのではないかと考え，①と同じオノマトペを用いて，3～4人のグループで動きで調査を行い，イメージの種類を分析し以下のような結果が出た。

1．オノマトペ「ピョンピョン」

「ウサギ」(17グループ)「カエル」(17グループ)「カンガルー」(10グループ)「バッタ」(7グループ)が大半を占めており，1人で動いた場合と同様であった。しかし，グループの場合は，それ以外にもイメージの種類が多くみられた。動きでは，1人で動いた場合と同じようにそれぞれが思い思いに「跳ぶ」動きをしていたが，しばらくすると互いに影響しあい，模倣しながら跳ぶ様子がみられた。

2．オノマトペ「クルクル」

「扇風機」(11グループ)が最も多く，続いて「ヘリコプター」(6グループ)であった。各グループが様々なイメージを想起していた。動きでは，友だちと手を繋いで回ったり，身体部位を回したり，様々な方向に転がったりする動きがみられた。

3．オノマトペ「コロコロ」

「ダンゴムシ」(12グループ)「ボール」(11グループ)「ドングリ」(7グループ)が多く，1人で動いた場合と変わらなかった。動きでは，横転が最も多く，前転や側転もみられた。始めはイメージを持って動いている様子であったが，次第に友だちの影響を受けて，側転などの新しい動きに挑戦する姿もみられるようになった。

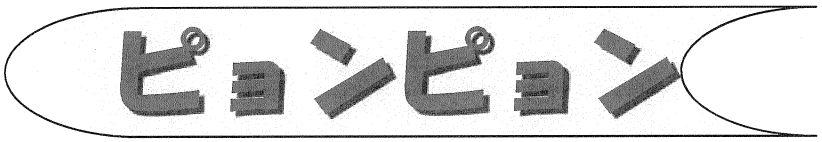
4．オノマトペ「ブーンブーン」

「ハチ」(16グループ)「車」(10グループ)「ハエ」(7グループ)が上位を占め，生き物と乗り物が大半を占めていた。動きでは，走ったり止まったりする動きを繰り返しながら，友だちと関わる姿が多くみられた。特に乗り物では，役割を持ちながら1つのイメージを数人で表現してい

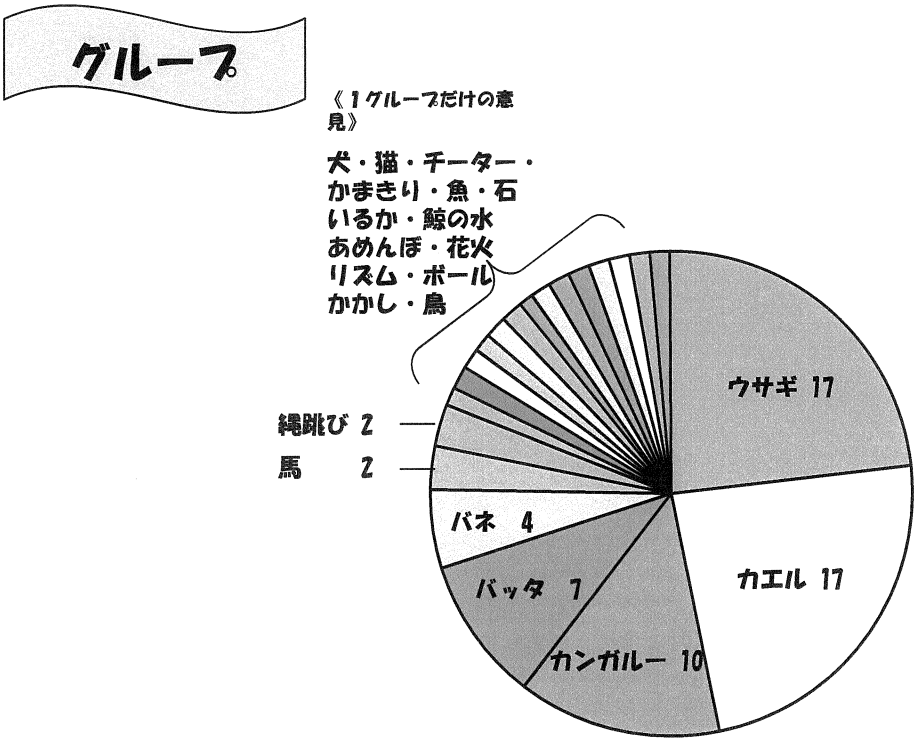
NII-Electronic Library Service

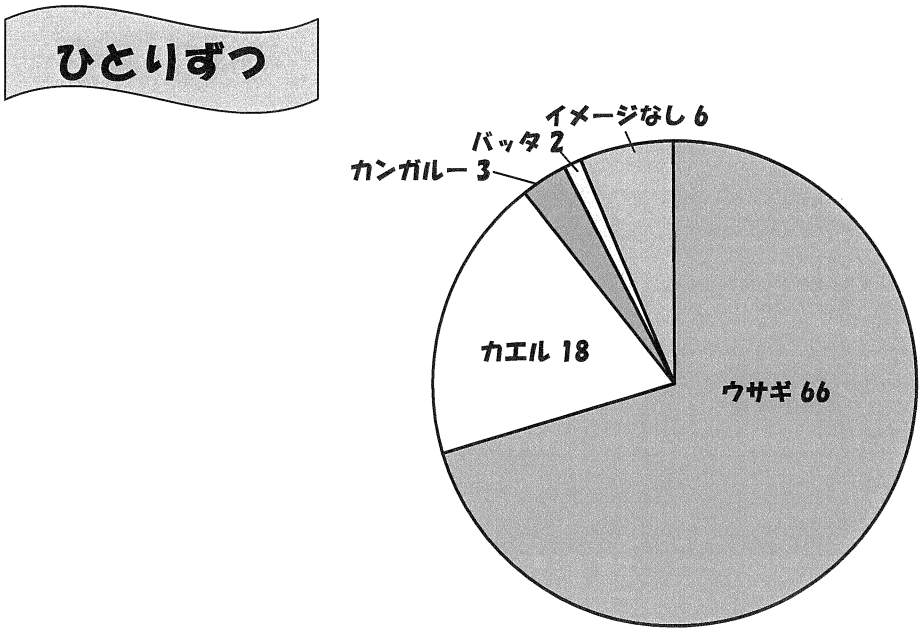
Saga Women's Junior College

図１　オノマトペとイメージ（個人とグループに比較）



❶オノマトペからイメージするものを応える





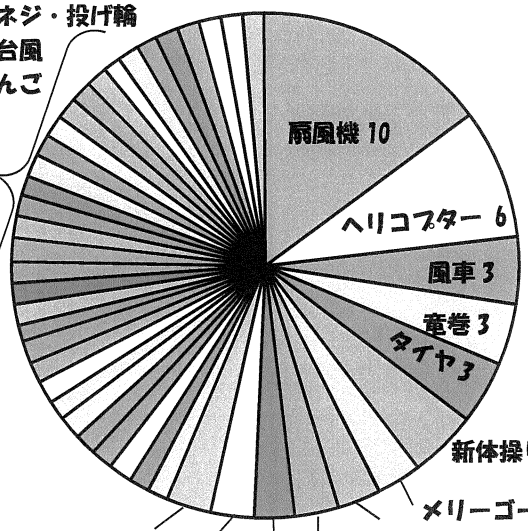
NII-Electronic Library Service

クルクル

❶オノマトペからイメージするものを応える

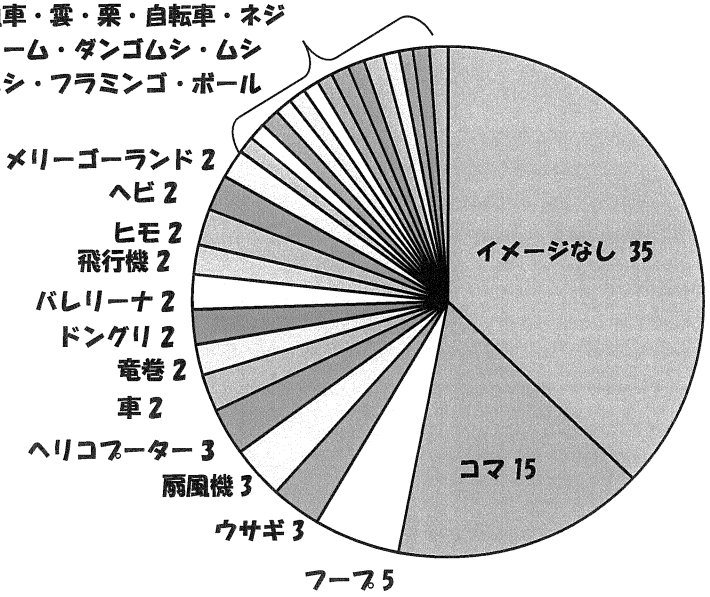
グループ

《１グループだけの意見》
綿菓子・リンゴの皮むき・フラフープ
ばね・葉っぱ・バイク・ネジ・投げ輪
トマト・でんぐり返し・台風
ティッシュペーパー・だんご
竹とんぼ・タケコプター
ゾウ・すいか・手裏剣
ジェットコースター
サーカスの人・コマ
キャンディー・汽車
観覧車・髪のカール
かたつむり・風・馬
渦巻き・糸・椅子・UFO



ひとりずつ

《１グループだけの意見》
カール・風車・雲・栗・自転車・ネジ
ソフトクリーム・ダンゴムシ・ムシ
テントウムシ・フラミンゴ・ボール



NII-Electronic Library Service

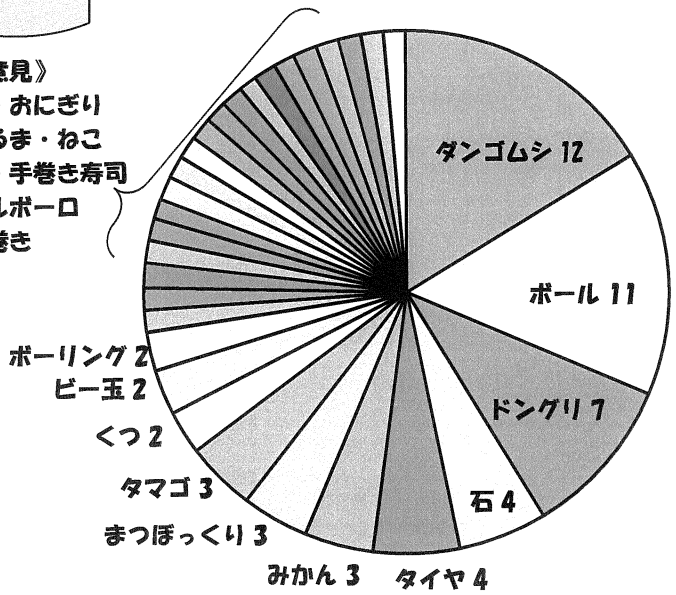
Saga Women's Junior College

コロコロ

❶オノマトペからイメージするものを応える

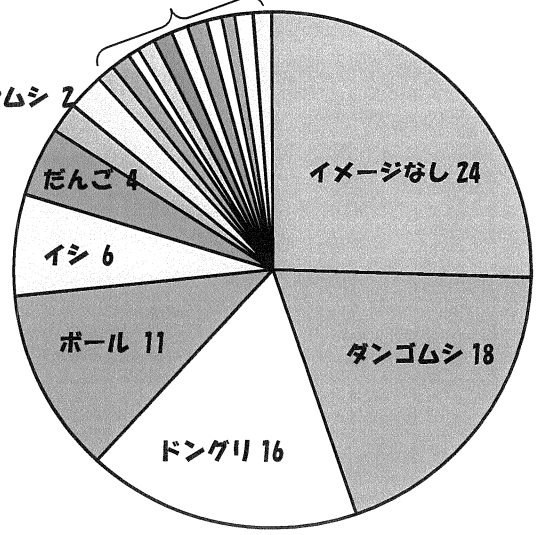
グループ

《１グループだけの意見》
テントウムシ・イヌ・おにぎり
葉っぱ・火花・雪だるま・ねこ
木・人間・電気・栗・手巻き寿司
トマト・りんご・マルボーロ
バルーン・コマ・渦巻き
いもむし・ちくわ



ひとりずつ

《１グループだけの意見》
イヌ・エンピツ・おにぎり・コアラ・パンダ
コオロギ・掃除のコロコロ・ブタ
でんぐりかえり・ドアのノブ・のりまき・



NII-Electronic Library Service

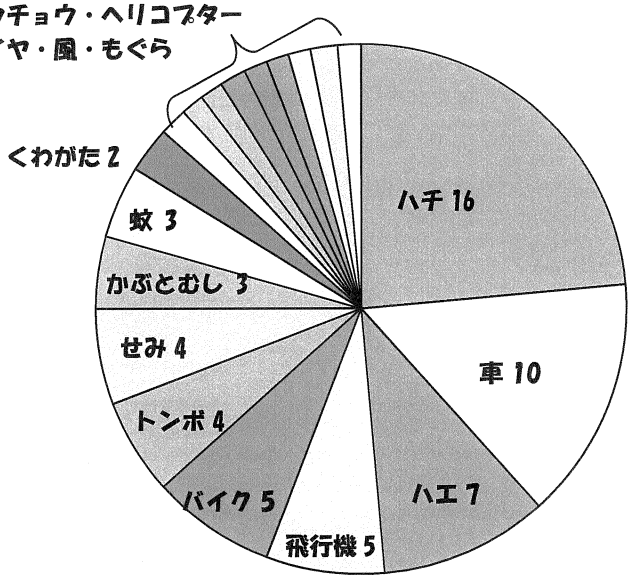
Saga Women's Junior College

ブーンブーン

❶オノマトペからイメージするものを応える

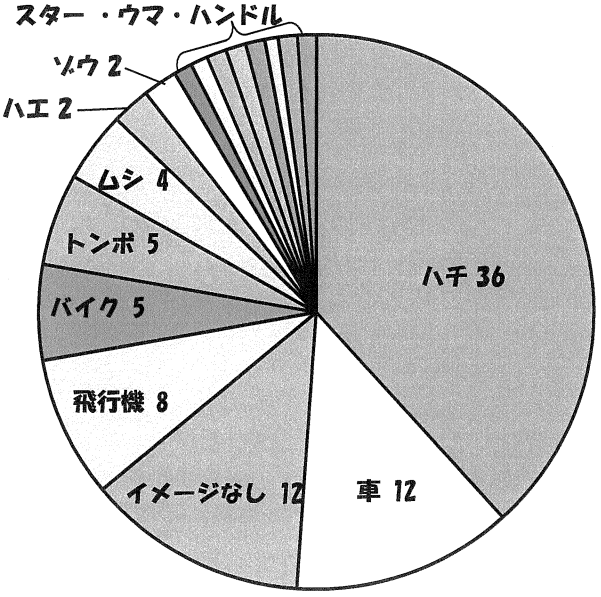
グループ

《１グループだけの意見》
ムシ・チョウチョウ・ヘリコプター
掃除機・タイヤ・風・もぐら
バス・船



ひとりずつ

《１グループだけの意見》
チョウチョウ・ヘリコプター・空飛ぶペンギン・メリーゴーランドジェットコースター・ウマ・ハンドル



NII-Electronic Library Service

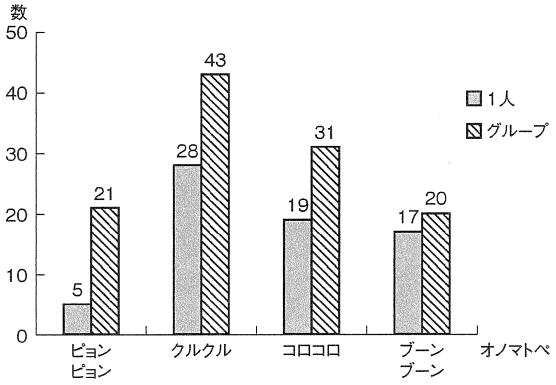
Saga Women's Junior College

た。

以上の結果から，イメージの種類においては，共有したイメージの中で友だちと一緒に動くことで刺激しあい，新しいイメージを想起することに繋がっていったと考えられる。

動きについては，友達の動きを認め合ったり模倣することにより，幼児が自分の動きを見つける手がかりとなった。さらに，皆で作り上げる喜びを感じることで，動く楽しさが増し，次への意欲を引き出すきっかけとなることがわかった。これらのオノマトペの研究を通して，友だちと一緒に動くことが，イメージの共有を可能にし，動きを楽しむ活動に繋がるものと考えられた。

表２　イメージの種類



筆者らは，これまで幼児は一つのオノマトペから様々なイメージを持ち，そのイメージで動くことが確認できた。また，一人で動くより仲間とともに動く方が，イメージの想起やイメージの共有を容易にし，創意工夫して動く姿も見られ，動くことが活発化することが解った。

③　では，基本の動作の中から「歩く」をイメージするオノマトペを取り上げ，子どもたちのイメージの広がりや動きについて，さらに調査を行った。指導者が日常的に使用するオノマトペの中から「ソロリソロリ」「ドシンドシン」「ペタペタ」「フワーフワー」「ヨチヨチ」「サッサッサッサッ」を選び，幼児数人のグループに対し以下の対面調査を行った。

それぞれのオノマトペからイメージしたものには生き物が最も多く，動きの特徴としては，その生き物が「歩く」様を模倣しているものであった。また，動きの強弱を足音や声で表現する姿がみられた。

１．オノマトペ「ソロリソロリ」

イメージしたものには，ヘビ（７グループ），ワニ（６グループ），クマ（５グループ），カメ（５グループ）などの生き物やオバケ（７グループ），忍者（４グループ）などの空想するものが多かった。動きでは，手首を胸の前でたらしゆっくりと歩いたり，腹ばいになったりして腕の力で前進する姿があった。

２．オノマトペ「ドシンドシン」

イメージしたものの総数が他のオノマトペより最も多く，特に恐竜・怪獣（27グループ）が大半を占めていた。次に，ゾウ（19グループ），クマ（10グループ）の生き物が多かった。動きで

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

は大股で歩いたり，腕を曲げ手首でひっかきながら両足を大きく踏みならして歩いたりする姿がみられた。

3．オノマトペ「ペタペタ」

イメージしたものは，ペンギン（25グループ）が最も多く，次いでカエル（6グループ）であった。ペンギンの動きは，手足をピンと伸ばして足音をペタペタさせながら小刻みに前進する動きであった。

4．オノマトペ「フワーフワー」

雲（20グループ）をイメージしたグループが最も多く，次いで綿飴（9グループ），鳥（8グループ），風船（6グループ），羊（5グループ）であった。このイメージしたものは「歩く」イメージではなく，そのものの状態を表している場合が多くみられ，直接「歩く」動きに結びつくものは少なかった。雲の動きでは手をフワフワさせ回りながら歩いたり，3人でつないだ手を上下させながらゆっくり回ったり，腹ばいになって雲に乗っている様子をする姿があった。

5．オノマトペ「ヨチヨチ」

イメージは赤ちゃん（19グループ），ヒヨコ（11グループ），ペンギン（5グループ）が多く，生き物が大半を占めていた。動きは，四つ這いやしゃがんで歩く姿がみられた。

6．オノマトペ「サッサッサッサッ」

イメージは忍者（20グループ）が最も多く，次いでチーター（7グループ）であった。忍者では，胸の前で人差し指を立てて手を組み素早く走る姿がみられた。チーターでは，高這いになり両手を床について滑らせながら走り回るなど「歩く」動きより「走る」動きが多くみられた。

以上の結果から，幼児は，絵本，紙芝居，テレビ・ビデオなどの視聴覚教材や自然体験の中で生き物に出会う機会が多いことから，今回の調査におけるそれぞれのオノマトペに対し，生き物を多くイメージしたものと考えられる。しかし，動きの特徴は典型的なものが多く，発展する動きはあまりみられなかった。幼児の動きを変化発展させるためには，イメージを深める保育者の言葉かけが必要であると考えられる。

「歩く」をイメージするオノマトペを取り上げたが，「フワーフワー」に関しては，直接「歩く」をイメージするものには繋がらず，見た目や感触をそのまま表すことが解った。

このことから「フワーフワー」と歩くことの体験が少ないことが考えられ，日常生活での動きの体験を幼児に提供する必要性が示唆された。

以下は，③を図・表で示す。

NII-Electronic Library Service

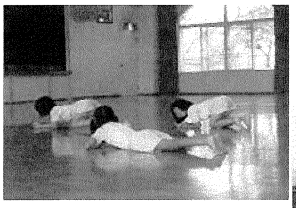
Saga Women's Junior College

（表３・図２オノマトペとイメージ）

オノマトペ ソロリソロリ

イメージしたもの

イメージ	個数
ヘビ・おばけ	7
ワニ	6
かめ・熊	5
泥棒・忍者	4
毛虫	3
蟻・いも虫・スケート・ぞう・ペンギン	2
アザラシ・イカ・クジラ・オオカミ・カバ・サル・トラ・ライオン・白鳥・鳥・カブトムシ・蜘蛛・ナメクジ・ミノムシ・ミミズ・カタツムリ・さむらい・サンタ・友達の名前・雲・掃除機・ソリ	1



おばけ

ヘビ

動きの種類（5グループ以上が取り上げたもの）

ヘビ	両手を合わせて前に伸ばし、中腰の姿勢で歩く。途中から、うつ伏せ寝の状態から四つ這姿勢で進む。手を合わせて這う。
おばけ	両手を前で縮め静かに歩く。
ワニ	腹ばいになり腕の力で前進する。両手と両足でお尻を高く上げて這う。

ソロリソロリというオノマトペからは、ゆっくりとした動きや音を立てずに動く様子が見られ、イメージしたものにはその動きの特徴を持つものが出現した。

オノマトペ ドシンドシン

イメージ	個数
恐竜・怪獣	27
ゾウ	19
熊	10
お相撲さん	5
ロボット	4
鬼・カバ・ゴリラ・地震	3
石上から落ちる石・キリン・ライオン	2
クジラ・サイ・ダチョウ・チーター・トラ・パンダ・ワニ・椅子に座る・巨人・魔王・マンモス・ドラゴン・花火・冷蔵庫・飛行機が落ちた音・物が落ちた音	1

ゾウ

恐竜
怪獣

動きの種類（5グループ以上が取り上げたもの）

恐竜・怪獣	力強く足踏みして、腕は曲げ、引っ掻くように歩く。
ゾウ	象の鼻に見立てて前に伸ばしたり振ったりしながら、大股歩きや前かがみになり歩く。
クマ	足音を大きく立てて大股で歩く。
お相撲さん	足に力を入れて踏みしめて歩く。

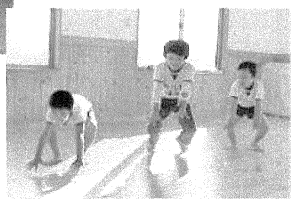
ドリンドシンのオノマトペからは、比較的大きなものをイメージし、そのものになりきって大きな足音を立てたり、力強く動く様が見られた。

NII-Electronic Library Service

オノマトペ ペタペタ

イメージ	個数
ペンギン	25
蛙	6
トカゲ	3
アヒル・チーター・猫・ネズミ・バッタ・飴	2
足にガムがくっついた	1
ライオン・ゴリラ・うさぎ・ひよこ・にわとり・鳥・へび・ヤモリ・くわがた・かたつむり・ カメ・カブトガニ・魚・尻・河童・汗をかいた時・水たまり・雨・絵具・粘土・のり・餅・ペロペロキャンディー・ヨーヨー	1

カエル



ペンギン

動きの種類（5グループ以上が取り上げたもの）

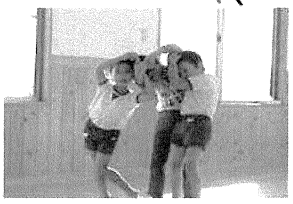
ペンギン	手足をピンと伸ばして足音をペタペタさせながら小刻みに前進。
カエル	しゃがみながら手を床につけて、歩いたりジャンプをしながら前進。

オノマトペペタペタではペタペタという音からイメージするものやそのものの様からイメージするもの、また、実体験したものを取り上げ動いていた。動きの特徴としては、足音をペタペタさせながら小刻みに前進する動きや生き物が着地する様子をとらえて動いていた。

オノマトペ フワーフワー

イメージ	個数
雲	20
綿菓子	9
鳥	8
風船	6
羊	5
お化け・幽霊・シャボン玉	3
魚・くらげ・蜘蛛の巣	2
牛	1
らくだ・フラミンゴ・ふくろう・白鳥 こうもり・蛸・ちょうちょう 電気ウナギ・飛行機・ヘリコプター 気球・凧・湯気・お天気 落ち葉のベッド・饅頭・餅・ソファー クッション・トランポリン・布団・枕 毛布・ぬいぐるみ・柔らかいボール	1

綿 菓子



雲

動きの種類（5グループ以上が取り上げたもの）

雲	3人で手をつなぎ手を上下させながらゆっくり回る。 両手体の横で大きく動かし跳ねるように移動する。
綿菓子	3人でくっついて手で丸を作る。体を左右に揺らしながら歩く。
鳥	両手を広げ上下させながらゆっくり歩く。
風船	胸の前で両手を合わせ、座った姿勢から少しずつ立ち上がり、両手を大きく回しながら跳ぶ（風船が割れる）。両手を頭上に伸ばして円を作り、走りながら「パン」と言って跳び上がる。
羊	四つ這いや高ばいで進む。

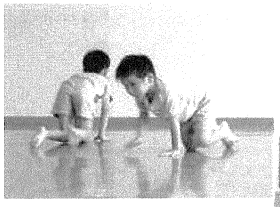
オノマトペフワーフワー では実際にフワーフワとしたものやその様からイメージするものが多く。歩くと結びついたイメージは少なかった。動きでは手をフワフワさせながら回ったり歩いたりしていた。また、数人で手をつなぎ上下させながら動いていた。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

オノマトペ ヨチヨチ

イメージ	個数
赤ちゃん	19
ひよこ	11
ペンギン	5
犬の赤ちゃん	3
鳥・ねずみ・蟻	2
ライオン・トラ・猿・猫・リス・にわとり アヒル・きつつき・ハムスター へび・カメ・カブトムシ お母さんと子どもの散歩・歩く ロボット・恐竜の赤ちゃん アイスクリーム	1



ヒヨコ

赤ちゃん

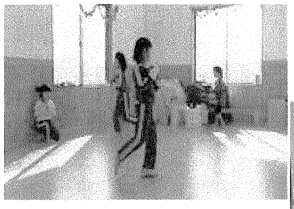
動きの種類（5グループ以上が取り上げたもの）

赤ちゃん	四つん這いになり歩く。
ヒヨコ	しゃがんで手を広げながら歩く。片手をくちばしに見立て中腰で前かがみになり歩く。
ペンギン	両手をわきに付けて歩いたり足を突っ張りながら歩く。

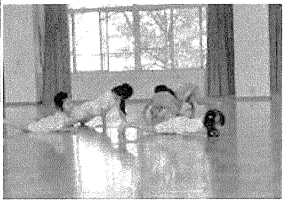
オノマトペヨチヨチでは、赤ちゃんや動物などの生き物が動く様をイメージし、四つん這いになったり低い姿勢で歩いたりして小刻みなリズムで動いていた。

オノマトペ サッサッサッサッサッ

イメージ	個数
忍者	20
チーター	7
猿・走る	4
草・自転車（バイク）	3
ワニ・トカゲ・魚・うさぎ・へび ハムスター・泥棒・リレー 葉が落ちる・車・ジェットコースター	2
馬・オオカミ・カバ・狐・ゴリラ シマウマ・猫・ねずみ・ライオン ペンギン・サメ・人間・人魚・鬼 セミ・ちょうちょう・蟻・鳥・ふくろう フラミンゴ・モモンガ・大雨・かぜ 台風・食事をとる ジュースのミキサー・お皿を洗う 土を掘る・プールで泳ぐ 物が落ちる・新幹線・手裏剣	1



チーター



忍者

動きの種類（5グループ以上が取り上げたもの）

忍者	人差し指を立てて両手を握りながら走る。手裏剣投げをしながら走る。
チーター	雑巾かけのように両手を床について滑らせながら速く前に進む。

オノマトペ　サッサッサッサッサでは、素早く動くものをイメージし、素早く走ったり、高這いで両手を床について滑らせながら走り回ったりする動きが多くみられ、歩くというより走る動きが多かった。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

5．まとめ

幼児がオノマトペから様々なイメージを持ち，動きを楽しむ姿が見られ創造性豊かな表現活動の一助となることが解った。しかしオノマトペの種類によってはイメージや動きが異なることが予想された。また，一人で動くこととグループで動くことでは，友達と動くことで刺激し合うことに繋がり，新しいイメージへ展開していく姿が見られ，グループの効果と推測される。

今回は，幼児の生活経験よりイメージが広げられると思われる５歳児を対象としたが，年齢の違いやオノマトペの種類によっては，イメージの広がりや動きに変化がみられると思われる。

筆者らは，先行研究においても幼児の身体表現活動における言葉かけについて研究を重ねてきたが，研究対象数や種類の数が少なく十分な研究とは言い難い。今後はさらにこれらを増やし，研究を進めていきたい。

引用・参考文献

① 小松恵理子ほか：「効果的な身体表現指導法に関する研究―保育者養成校の授業分析から―」九州体育・スポーツ学研究第　p. 68　2004

② 高原和子ほか：「保育者養成校における身体表現の効果的な指導法」日本保育学会第62回大会集　p. 148　2009

③ 小川鮎子ほか：「幼児の身体表現活動における指導言語について」九州体育・スポーツ学研究第24巻第１号　p. 81　2009

④ 瀧信子ほか：「幼児の身体表現活動における言葉かけについて」日本保育学会第63回大会集　p. 503　2010

⑤ 高原和子ほか：「身体表現活動を引き出す言葉かけ―オノマトペを用いた動きとイメージ―」九州体育・スポーツ学研究第　p. 56　2010

⑥ 下釜綾子ほか：「身体表現活動を引き出す言葉におけるオノマトペを用いた動きとイメージ」日本保育学会第64回大会集　p. 503　2011

⑦ 高原和子ほか：「保育者養成における身体表現の効果的な指導法」日本保育学会第64回大会集　p. 148　2011

⑧ 矢野咲子ほか：「幼児の身体表現活動を支える言葉かけについて」こども短期大学紀要第23号　pp. 19-30　2011

⑨ 小川鮎子ほか：「幼児の身体表現活動を引き出す言葉かけ―歩くをイメージして―」日本保育学会第65回大会集　p. 613　2012

⑩ 青木理子・青山優子・井上勝子・小川鮎子・小松恵理子・下釜綾子・高原和子・瀧信子・矢野咲子　共著「新訂　豊かな感性を育む身体表現遊び」p. 28　2012

NII-Electronic Library Service